

テモテへの手紙第一3:1-13 教会の役職

本日、この礼拝の最後に、YIBCの新しい3名の執事を任命する按手式を行います。そこで、この機会に、マルコの学びを一旦中断し、教会のリーダーシップにおける聖書に定められた役職について、教会全体で学び直したいと思います。まずは、私たちの信仰声明であるバプテスト信仰とメッセージ2000の、地域教会に関する章の後半を読みましょう。各会衆は、主としてのキリストの権威の下に、民主的な方法を通じて運営される。そのような会衆において、各会員は、主であるキリストに対して責任を負う。聖書に基づく教会の役職者は、牧師／長老／監督と執事である。男性も女性も共に教会における奉仕のために賜物を与えられているが、牧師／長老／監督の役職は聖書によって定められるとおり男性に限られる。バプテスト信仰とメッセージは、聖書に基づき、会衆全体に対して責任を負う教会の役職は二つのみ、つまり長老／牧師／監督、そして執事であると明言しています。そしてこの二つというのは、本日読む聖書箇所で言及されている二つの役職です。聖書では、牧師の職を示す言葉が三つあり、どれも同じように使われています。ぜひ、使徒の働き20章を読んで確かめてみてください。一つは、監督と訳されるEPISKOPOS、もう一つは、長老と訳されるPRESBUTEROS、もう一つは、牧師または羊飼いと訳されるPOIMENです。本日の聖書箇所は、まず、監督と呼ばれる男性の基準について述べています。これは、教会として、私たちがこの役職のために誰を選ぶかの基準でもあります。では、テモテへの手紙第一3章1～17節を読みましょう。次のことばは真実です。「もしだれかが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることである。」² ですから監督は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし、教える能力があり、³ 酒飲みでなく、乱暴でなく、柔和で、争わず、金銭に無欲で、⁴ 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。⁵ 自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるでしょうか。⁶ また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないようにするためです。⁷ また、教会の外の人々にも評判の良い人でなければなりません。嘲られて、悪魔の罠に陥らないようにするためです。

まず、「職に就きたいと思う」ことが一つ目の基準として与えられています。その職を求めている、ということです。私たちは誤って、主観的に召しを受けていると感じることに重きを置きすぎているようですが、新約聖書では、賜物を授けられていること、その職を求めていること、そしてその人の人格、これらが重要な点であるとされています。これを次の何節かで見ていきます。職を求めるだけでは十分でなく、長老という「立派な働き」において仕えることを求めることが必要です。その責務は重要で、「立派」なのです。第2節が「ですから」と始まっているのはこのためです。つまり、この職は非常に重要ですから、監督は、非難されるところがない人でなければなりませんと書かれています。長老の生き方がどのようなべきかが、この表現に集約されています。非難されるところがない、誰も咎めることができないということです。ここで、今日の聖書箇所の次の部分、執事について書かれている8節から13節も読みたいと思います。⁸ 同じように執事たちも、品位があり、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利を求めず、⁹ きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人でなければなりません。¹⁰ この人たちも、まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点があれば、執事として仕えさせなさい。¹¹ この奉仕に就く女の人も同じように、品位があり、人を中傷する者でなく、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。¹² 執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。¹³ 執事として立派に仕えた人は、良い地歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について、強い確信を持つことができるのです。この箇所を今読む必要があるのは、長老の条件のうち道徳と人格に関するものが、すべて執事にも必要とされることを理解するためです。長老が非難されるところがない人であるべきであるとする一方、神は、ご自分のことばにおいて、執事も非難される点がない人でなければならぬと、同じ条件を示されています。そして、これは、すべての信仰者に求められる生き方です。ピリピ人への手紙2章14～15節に、次のようにあります。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。¹⁵ それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世

代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、……。これは私たちに何を教えているのでしょうか？ 私たちが長老や執事として探しているのは、超人的なクリスチャンではなく、すべての信者に求められるのと同じ生き方への献身が認められる人である、ということです。

初めに、長老と執事の基本的な人格として、非難されるところがない、という特徴を見ました。今日の聖書箇所に掲げられている条件を読み進めると、長老つまり監督の家族について述べられています。2 節に、監督は**一人の妻の夫**でなければならない、とあります。さらに 4 節から、次のようにあります。⁴ **自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。**⁵ **自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるのでしょうか。**そしてここでも、12 節に、執事について同じことが書かれています。¹² **執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。**この「一人の妻の夫」という言葉は、「一人の女性を愛する男性」という意味です。離婚したことのある人は、この基準に従っていないため、長老や執事として仕えるべきではないという意見もあるでしょう。それは確かにあり得る解釈ですが、他の条件についても同じ尺度で判断できるかを問う必要があります。長老になることが認められるのは、これらの条件を、救われる前ですら完全に満たしてきた人だけでしょうか？ そうであれば、誰も長老になることは認められないでしょう。それより、私たちは、長老または執事の候補者の現在の状況を吟味している、と考えるほうが良いでしょう。この属性を、その人の過去が示していなくても、現在の生き方が示しているかを見るのです。この「**一人の妻の夫**」であるという属性については、もし離婚歴があるのであれば、それが遠い過去のことであって、現在は一人の女性のみ献身しているかを見るのが最善であると考えられます。どういう状況での離婚であったかも重要です。夫がクリスチャンになり、妻がその変化を受け入れられず、夫から離れていったという状況でしょうか。私は、まさにそのような状況にあった牧師を知っています。彼は何年も妻との和解を試みましたが、妻は彼との婚姻関係を続けることも、救い主としてキリストを受け入れることも拒否しました。最終的に、彼は再婚し、牧師になりました。私としては、彼は完全に「一人の女性を愛する男性」または「**一人の妻の夫**」として生きており、長老の資格があると考えています。しかし、私たちが吟味すべきは結婚についてだけではありません。子どもをどのように訓練しているかについても吟味しなければなりません。私たちは、長老または執事の候補者の子どもが、彼らの訓練と指導にどのように応じているかを見る必要があります。長老の場合、私たちはその男性に、教会の指導者としての役割を果たすことを求めています。もしその人が家族をうまく指導、あるいは 5 節にあるように「**治めて**」いないのであれば、どうして教会を指導することができるのでしょうか？

次に、長老と執事に求められる人格の特徴のリストがそれぞれあり、両者は非常に似ています。長老と執事は、2 節にあるように「**自分を制し**」ているべきであり、8 節にあるように「**品位がある**」べきです。長老と執事は深刻な事柄を冗談交じりに扱いません。神に関することは、真剣な注意を必要とします。これは、ユーモアのセンスを持てはいけないということではなく、真剣であるべき状況、物事を真剣に受け止めるべき場合をわきまえているということです。2 節の**慎み深く、礼儀正しく**と、11 節の**品位があり、そして自分を制し、すべてに忠実な**という特徴にも同様の考えが見られます。自分の時間や人間関係、人生の重要な事柄に責任を持たない人、制御できない人には、長老や執事となる資格はありません。神のことばを教えるという長老の仕事と、教会内のミニストリーを率いるという執事の仕事は、最大限の努力に値する重大な事柄です。また、ほかの人々への接し方における人格の特徴についても述べられています。長老は、**よくもてなす**こと、他者への愛からその人々のために何かをする人であること、と書かれています。私たちはだいたい、もてなすとは家に招くことと考えますが、ほかの人々に奉仕することとして、様々な形があります。次に、長老については 3 節に**乱暴でなく、柔和で、争わず**、執事については、8 節に**二枚舌を使わず**、11 節に人を**中傷する者でない**と書かれています。ことばや行動で他人を攻撃する人、争いを求める人、他人の噂話をする人……このような人（執事の場合は男性か女性）は、長老や執事として奉仕すべきではありません。これは、現代特有の状況にもあ

てはまります。Facebook のようなソーシャルメディア、電子メール、携帯のショートメール、ポッドキャスト、YouTube などです。オンラインで攻撃的、煽るような行動をとっていることから、牧師になる資格がない男性もいると、私は考えています。私たちは聖書の真理を公に擁護すべきであり、それゆえ意見の相違が公の場や教会生活の中で起こることもあります。しかし、そのような意見の相違を、明確かつ敬意と謙虚さをもって表現することは可能です。

長老と執事の両方について見る最後の 2 つの項目は、アルコールと金銭です。3 節には、**酒飲みでなく、金銭に無欲で**、とあります。そして 8 節には、**大酒飲みでなく、不正な利を求めず**、とあります。アルコールの摂取量をコントロールできないことは、自制と自己規律が欠けていることを示しています。思考、言動の制御を失うため、暴力をふるわないよう、争いを始めないよう、人を中傷しないように制御する能力が損なわれます。このことを、長老と執事はアルコールを全く飲むべきでないという意味に理解する人もいれば、飲むことはできるが、酔うまで飲んではならないと理解する人もいるでしょう。貪欲であることは、自制の欠如ではなく、私たちの生活の中で、金銭を偶像とする、人格の問題を示しています。人々からの献金を受け入れ、教会の金銭を管理すること要する立場では、貪欲な人はこれらの立場で奉仕すべきではありません。また、これは別の聖書箇所に関わり、別の説教で取り上げるべきですが、神が許されるのであれば、ひとりの長老、またはすべての長老が教会への奉仕に専念できるように、彼らが生活できるだけの賃金を教会が支払うのは良いことであり正しいことである、と聖書は明言しています。

神のことばに基づき、明らかに、長老と執事を選ぶ際に圧倒的に重要なのは、これらの教会の役職に選ばれる人々の人格です。ですから、彼らがどれだけキリストに似た生き方、聖書に従った生き方をしているか——これが、今日按手する執事たちに皆さんが投票した際の第一の評価基準であったこと、あるいは数か月後に投票を行う長老の候補者を吟味する際に、第一の評価基準であることを願います。一方、長老の条件のリストと執事の条件のリストとの間で、二つ、明確に異なる点があります。一つ目は、長老は 2 節にあるように「**教える能力がある**」人でなければならない、執事は、9 節に、「**きよい良心をもって、信仰の奥義を保っている人**」でなければならない、という点です。信仰の奥義とは、福音のことです。ですから、執事は、福音を明確に理解しており、自分の生活において福音を反映することで、彼らの強い信仰を示さなければなりません。そして、長老に対しては、さらに進んだ要求が示されています。長老は、福音の真理と聖書全体を明確に、かつ確信をもって教えることができなければなりません。これは、使徒の働き 6 章 4 節に記されているとおり、最初の長老たちが、「祈りと、みことばの奉仕に専念」するために最初の 7 人の執事あるいは執事の原型とみなされる人々を選んだことと連動しています。長老は、みことばの奉仕により教会を導きます。このみことばの奉仕のために、長老は、教えることのできる賜物と能力を与えられているのです。ですから、これは長老を選ぶ際に第一に考慮することであるべきです。しかし、ここで注意すべき点を加えさせてください。地域教会の長老として召されたすべての男性が、教会で主に説教を担当する牧師として召されるわけではありませんし、何らかの形の神学校で聖書の訓練を受ける機会がある男性も多くはありません。YIBC でも、男性に対しより良い訓練を提供できることを望みますが、時間と能力に制約があります。また、私は、神が適切な男性を与えてくださるのであれば、教会に多様な文化的背景を持つ長老がいることは良いことだと信じています。これも、説教に関する制約となります。英語が母国語ではない人も長老となることになり、第二、あるいは第三言語で自分の意図を表現するのが困難になることを意味します。ですから、私たちは、その人が、彼の母国語を話す人々に神のことばを正確に教えることができるかどうかを吟味の対象とすべきです。このように、長老は神のことばを教える能力がなければならない、という点が最初の違いでした。そして、二つ目の、そして最後の違いがあります。これは、私たちが採択した信仰告白に含められているほど重要な点です。監督、つまり長老に関する 1 節から 7 節には、「一人の妻の夫」という条件以外に、女性についての言及はないことに注目してください。この「一人の妻」という条件は、12 節で執事についても述べられています。しかし、11 節では執事に関して、「**この奉仕に就く女の人も同じように、品位があり…**」という語句が追加されています。（私たちが使っている英訳聖書では、「彼

らの妻も同じように」とあります。)それはなぜであるかを、考えてみなければなりません。長老と執事に対してほぼ同一の条件のリストが示されていながら、長老たちの妻については何も述べられておらず、執事に関してのみ、このように別個に言及されているのは奇妙です。しかし、教会の執事には男性だけでなく女性も含まれることが想定されていたとすれば、それは奇妙ではありません。英訳聖書で「妻」と訳されているギリシャ語のことばは、常に妻を意味するわけではなく、実は、女性を意味します。ですから、私たちが使っている英訳聖書 ESV の訳には問題があり、妻ではなく女性と訳している NIV や新改訳 2017 の方が優れているといえるでしょう。女性は執事として仕えることは想定されているが、長老として仕えることはできないという解釈は、**テモテへの手紙第一 2 章 12 節の、「私は、女が教えたり、男を支配したりすることを許しません」という記述を理解する上でも理にかなっていません。**女性の執事は認めるが、女性の長老は認めないのであれば、この聖書箇所での教えや支配とは、長老の役割としての教えや支配を指していることになります。女性は教会あるいはリーダーシップにおいていかなる権威も持つことはできない、いうことではなく、牧師、長老、監督としての権威は持つことができない、ということです。これらの用語と定義は重要です。私たちが長老と執事を慎重に指定し、役職を混同させる可能性のある用語や、聖書に基づく用語でない「ディレクター（責任者）」のような用語を避けているのは、私たちのミニストリーのディレクターは執事であり、私たちの長老は牧師です。こうして、聖書に基づいた用語と役職を維持しています。

多くの教会や、社会が、私たちに間違いなく反対するであろうにもかかわらず、私たちがこの基準を守り続けることがなぜ重要なのでしょうか？その答えは、**テモテへの手紙第一 3 章 15 節**にあります。「¹⁵ **たとえ遅くなった場合でも、神の家でどのように行動すべきかを、あなたに知っておいてもらうためです。神の家とは、真理の柱と土台である、生ける神の教会のことです。**」とあります。福音の真理を保持し、保護することが、キリストのからだである教会、つまりあなたたちに託されているのです！ですから、長老がその真理を正確に説教し教え、人々がその真理を知るのを助けるために執事が奉仕しミニストリーを率いる教会を、聖書に従って形成することによって、私たちは教会の使命を遂行します。その使命とは、この地上において、イエス・キリストの福音を宣べ伝えることです。私たちの周りのほとんどの人が拒否するメッセージですが、私たちはすべて、聖であり義である神によって創造されたが、神の栄光を現すことができず、**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず（ローマ人への手紙 3:23）**という真理を忠実に分かち合うように召されています。私たちの罪にもかかわらず、**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである（ヨハネの福音書 3:16）**という驚くべき、信じ難い真理を宣べ伝えるのです。そして、私たちの罪に対する神の怒りから救われる唯一の方法は、自分の罪を悔い改め、主であり救い主であるイエス・キリストに従うことである、という真理を宣べ伝えるのです。**マルコの福音書 1 章 15 節**にあるとおり、「**悔い改めて福音を信じなさい**」と宣べ伝えるのです。この福音は、文化には一致しません。私たちも社会に一致するのではなく、神のことばに一致するように、聖書に従って教会を築き、この福音の真理を擁護し宣べ伝えるのです。お祈りしましょう。

1 Timothy 3:1-13 Church offices

Today at the end of the service, we are going to lay hands on or ordain in traditional terms three new Deacons for YIBC. So, I wanted to take this opportunity to take a break in our study of Mark and refresh us once again as a church on the Biblical offices in church leadership. Let me start by reading the second half of the article on the local church from our statement of faith, the Baptist Faith and Message 2000. **Each congregation operates under the Lordship of Christ through democratic processes. In such a congregation each member is responsible and accountable to Christ as Lord. Its two scriptural offices are that of pastor/elder/overseer and deacon. While both men and women are gifted for service in the church, the office of pastor/elder/overseer is limited to men as qualified by Scripture.** The Baptist Faith and Message declares based on the Bible that there are only two scriptural offices, both of which answer to the congregation as a whole, Elders or Pastors or Overseers and Deacons. These are the two offices addressed in our passage today. There are three words for the office of Pastor and they are used interchangeably in Scripture. I encourage you to read Acts 20 if you want to see that. But those words are Overseer or Bishop which is EPISKOPOS, Elder which is PRESBUTEROS and Pastor or shepherd which is POIMEN. This passage begins by addressing the criteria for these men who are called overseers, which guides all of us as a church in who to select for this office. So let's read this first part of the passage verses 1-7 of 1 Timothy 3 as we begin. **The saying is trustworthy: If anyone aspires to the office of overseer, he desires a noble task. 2 Therefore an overseer must be above reproach, the husband of one wife, sober-minded, self-controlled, respectable, hospitable, able to teach, 3 not a drunkard, not violent but gentle, not quarrelsome, not a lover of money. 4 He must manage his own household well, with all dignity keeping his children submissive, 5 for if someone does not know how to manage his own household, how will he care for God's church? 6 He must not be a recent convert, or he may become puffed up with conceit and fall into the condemnation of the devil. 7 Moreover, he must be well thought of by outsiders, so that he may not fall into disgrace, into a snare of the devil.**

The first criteria we are given is actually that he “**aspires to the office.**” This shows a desire for the office. We mistakenly I believe have put too much emphasis on a subjective feeling of calling, but the New Testament, puts the emphasis on gifting, desire and as we will see in the next several verses, character. Desire is not enough, but it should be there to serve in this “noble task” of being an Elder. But this task is important...it is **noble**. From there verse 2 begins, **Therefore** [because this is such an important task] **an overseer must be above reproach**... This summarizes what the life of the Elder should be. To be above reproach means that no one can bring an accusation against you. At this point, we need to bring in the next section of our passage on Deacons from verse 8 – 13. **8 Deacons likewise must be dignified, not double-tongued, not addicted to much wine, not greedy for dishonest gain. 9 They must hold the mystery of the faith with a clear conscience. 10 And let them also be tested first; then let them serve as deacons if they prove themselves blameless. 11 Their wives likewise[d] must be dignified, not slanderers, but sober-minded, faithful in all things. 12 Let deacons each be the husband of one wife, managing their children and their own households well. 13 For those who serve well as deacons gain a good standing for themselves and also great confidence in the faith that is in Christ Jesus.** We need to read these verses now to see that all of the moral and character qualities of Elders are required for Deacons. So when we say that the Elder must be **above reproach**, God also tells us in His Word that the

Deacon must be **blameless**, which is the same requirement stated in a different way. And this is the same lifestyle required for all believers. In [Philippians 2:14-15](#), we read, [14 Do all things without grumbling or disputing, 15 that you may be blameless and innocent, children of God without blemish in the midst of a crooked and twisted generation, among whom you shine as lights in the world...](#) So, what does this tell us? We are not looking for Super Christians as Elders or Deacons, but those who demonstrate the same committed lifestyle required of all believers.

So, we first see the general character that we should look for in Elders and in Deacons – **above reproach** or **blameless**. But as we continue to look at the requirements listed in this passage, we next see the Elder or overseer's family addressed. Verse 2 says that he should be **the husband of one wife**. Then dropping down to verse 4 we read, **He must manage his own household well, with all dignity keeping his children submissive, 5 for if someone does not know how to manage his own household, how will he care for God's church?** And again, we see the same for Deacons in verse 12, **12 Let deacons each be the husband of one wife, managing their children and their own households well.** This phrase husband of one wife means "A one woman kind of man." Some would say that no one who has been divorced should ever serve as an Elder or Deacon because they have not been obedient to this standard. That is definitely a possible explanation, but we have to ask if we have that same standard for the other requirements. Do we require that a man qualified to be an Elder perfectly meet all these standards, even before salvation? I hope not, because none of us would be qualified. A better way to take this is we are examining the current situation of a possible Elder or Deacon. While their past may not reflect this character, their current life does. When it comes to this idea of **"husband of one wife,"** it seems best to take this as if there was a divorce, it was long in the past, and there is a current commitment to only one woman. The circumstances of the divorce matter. Did he become a Christian and then his wife left him because she did not like the changes. I know one Pastor that found himself in those exact circumstances, and although he tried to reconcile to his wife for years, she refused to be married to him or to accept Christ as her Savior. Eventually he remarried and became a Pastor. I personally believe he is fully living as a "one woman man" or **"husband of one wife"** and is qualified. But it is not just the marriage we are to examine, it is how they disciple their children. We are to see how that potential Elder or Deacon's children respond to their discipline and leadership. In the case of the Elder, we are asking that man to take a leadership role in the church. If he cannot lead or **"manage"** as verse 5 says his family well, then how can he lead in the church?

Then we have a list of character traits for both Elders and Deacons that very much look the same for both. They are to be so **sober-minded**, verse 2, **dignified**, verse 8. They don't treat serious matters in a joking way. The things of God demand serious attention. This doesn't mean you can't have a sense of humor, but it means that they know when to be serious and take things seriously. You see a similar idea in **self-controlled** and **respectable** in verse 2 and **dignified** and **sober-minded, faithful in all things** in verse 11. An out of control person who is not responsible with his time and relationships and important matters of life is not qualified as an Elder or Deacon. The teaching of the Word of God for Elders and the leading of ministry within the church for Deacons are serious matters that deserve our best efforts. We also see character traits in how we treat others. Elders are said to be **hospitable**, doing things for others out of love for them. We think of it often as opening our homes, but it can be seen in many ways as

serving other people. Then verse 3 says the Elder is **not violent but gentle, not quarrelsome** and verse 8 says of Deacons, **not double-tongued** and verse 11, **not slanderers**. A man or woman, in the case of Deacons, who is someone who attacks others with words or actions, who is looking for a fight, who gossips about others...this is not someone who should serve as an Elder or Deacon. This applies in modern ways as well – on social media like Facebook, through email, text message, podcasts, youtube. I believe there are some men that are not qualified to be pastors based on their online presence that is angry and inflammatory. We should publicly stand up for Scriptural truth, so disagreements may happen in public and sometimes in the life of the church as well. But there is a way to express those disagreements that is respectful and humble and clear. The final two items we see for both Elders and Deacons are alcohol and money. Verse 3 says, **not a drunkard** and **not a lover of money**. And verse 8 says, **not addicted to much wine, not greedy for dishonest gain**. An inability to control your intake of alcohol shows a lack of self-control and self-discipline. It affects your ability to not be violent, quarrelsome, slanderous, because you lose control of your thoughts and words and actions. For some that means they should not ever drink alcohol, for others they can drink, but not drink to the point of drunkenness. Greed shows not a lack of self-control, but a character flaw that puts money as an idol in our lives. In a position that requires accepting financial donations from people, and managing the money for the church, a greedy person should not serve in these positions. Now, it's a different sermon and a different passage, but the Bible is also clear that it is good and right for a church to pay an Elder or all their Elders if God allows, a livable wage so they can focus full time on their ministry to the church.

Clearly, the overwhelming concern from God's Word in the choosing of Elders and Deacons is the character of those chosen for these offices in the church. So, I hope as you voted on the Deacons we will ordain today or as you consider the Elder candidates that you will vote on a few months from now that this will be the primary criteria that you are judging them by – how Christlike and in line with scripture is their life? But there are two clear and distinct differences in these lists. One is in the requirement that an Elder be **“able to teach”** in verse 2 and verse 9 where Deacons are told that **9 They must hold the mystery of the faith with a clear conscience**. The mystery of the faith is speaking of the gospel, so the Deacons have to be clear in their understanding of the gospel and should demonstrate their strong faith by living it out in their lives. But Elders must be able to take it further. They must be able to teach the truths of the gospel and the entire Scripture with clarity and conviction. This is connected to the idea that the first Elders, the Apostles chose the first 7 deacons or perhaps better understood as proto-deacons in Acts 6 specifically so that they could, **“devote [them]selves to prayer and to the ministry of the word,”** from Acts 6:4. Elder leadership is based on this ministry of the Word that they have the gift and ability to teach. So, that should be a primary consideration in the choosing of Elders. But let me add a caution here. Not every man called to be an Elder in a local church will be called as the primary preaching pastor for a church, nor do many men have the opportunity to get Biblical training through some form of Seminary. While I would like YIBC to do better in that area of training up men, we are limited to how much time and capacity we have to do that. We have the added limitation in that if God brings the right men, I believe it is good for the church to have Elders from a diversity of cultural backgrounds. This means that English will not be the native language for some of our Elders and expressing themselves in a second or even third language will be difficult. The question should be, can this man

accurately teach the word of God to those who speak his native language. So, the first difference is the Elders must have an ability to teach the Word of God.

But there is a second and final difference that is important enough for us to include it in our statement of faith that we adopted. Notice that in verses 1-7 dealing with overseers or elders there is no mention of women outside of the requirement to be the “husband of one wife.” That requirement of “one wife” is also duplicated for the Deacons in verse 12. But verse 11 adds this small phrase for Deacons, **11 Their wives likewise must be dignified...** And we have to ask why? In two nearly identical lists of requirements for Elders and Deacons where Elders have no mention of their wives, it is odd to have this mentioned in a separate way for Deacons. However, it is not weird if it was expected that there would be women and not just men included in the Deacons of the church. In fact, this word “wives” in Greek does not always mean wives, it actually is the word for women. So, I would take issue with the English Standard Version here and say that the New International Version and the ShinKaiYaku17 actually better translate this as women, not wives. This interpretation that women cannot serve as Elders, but are expected to be serving as Deacons makes sense of **1 Timothy 2:12 I do not permit a woman to teach or to assume authority over a man; she must be quiet.** Seeing women Deacons but not women Elders would then mean that the authority and teaching in mind is that of an Elder. It doesn't exclude women from all types of authority in a church or leadership, but only that of a Pastor, Elder, Overseer. But those terms and definitions matter, and that is why we are careful to designate Elders and Deacons, and try to avoid terms like minister which can confuse the offices or even director that is not a Biblical term. Our directors of ministries are Deacons and our Elders are pastors so the Biblical terminology and office is preserved.

Why is it important that we continue to hold to this standard even though many churches and society would definitely disagree with us on it? The answer is found in verse 15 of 1 Timothy 3, where the Apostle Paul says, **15 if I delay, you may know how one ought to behave in the household of God, which is the church of the living God, a pillar and buttress of the truth.** The church, YOU, as the Body of Christ are the preservers and protectors of the truth of the Gospel! So by Biblically forming a church where Elders accurately preach and teach that truth and Deacons serve and lead in ministry to help people come to a knowledge of that truth, we carry out the mission of the church. That mission is the proclamation of the gospel of Jesus Christ on this earth. The message that most around us reject, yet we are called to truthfully share that we are all created by a Holy and righteous God, but we have failed to glorify him and **all have sinned and fall short of the glory of God (Romans 3:23).** The amazing and unbelievable truth that in spite of our sin, **God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life. (John 3:16)** The truth we share with everyone is that the only way to be saved from God's wrath and anger against our sin is to repent of those sins and follow Jesus Christ as our Lord and Savior. As **Mark 1:15 says, repent and believe in the gospel.** This countercultural gospel is the truth we defend and proclaim when we Biblically structure our church not to conform to society, but to the Word of God. Let's pray.